
『親との対立』

橋口 友郁

私は人生で一回転校したことがある。2019年の時当時、私は8歳で物事に興味津々だった頃、ある夏休みの時に初めて英語のサマースクールに通った経験がある。そこは非常に楽しく、いい思い出になったし、初めての日本人以外の友達もできた。ここでは新しい友達とお話したり、そこでは庭で遊んだり、新しい経験を体験することができた。サマースクールが終わった頃、私は母に「サマースクールはどうだった？」と聞かれた。私は楽しい思い出しもなく「楽しかったよ」と答えた。その次の瞬間「転校してみる？」と聞かれた。私はその頃通っていた学校の方が楽しいと感じていた為、それを聞いたことによって不安、不快感を感じた。学校の友達は幼稚園の頃から一緒の子がばかり居て、一緒に居て苦では無かった。だけどストレスに感じることは時々感じていた

自分的には全てが縛られている気がして息苦しかった。学校はキリスト教を基にしていたため、毎週木曜日教会に行く必要があったが、私はそれが嫌だった。授業の内容もあんまり得意ではなかったし、昔の学校ではストレスになることもあった。でも、友達が大好きだった私は学校を辞めたいと感じることはなかった。「転校する？」って言われた瞬間は寂しい気持ちに襲われた。でも、サマースクールでの楽しい思い出を作った場所で新しい学校生活を送ることができると感じるとワクワク感とドキドキ感が楽しめると思った。

どんどん話が進んでいき、転校するとなった日お母さんと学校の門の前まで行った。私はたくさんの方がいて不安感をもっと感じ門の前で大号泣をし始めた。そっからお母さんと言い合いになった。私は怖くて学校に行きたくないという気持ちに対してお母さんは、絶対に楽しいから行っておいでという気持ち。お母さんはなんで嫌なのと聞いてきた。私はなんでもかと思ったらいろんな国人がいるからだった。私が今まで経験したのは日本の学校。日本の学校は全てが綺麗で日本人の私にとってはこれが普通だとずっと思っていた。だけど新しい学校はは全てが自由だった。国籍も見た目も性格も全てが個性的に見えた。国籍は日本だけでなく、二十ヶ国以上の色々な国集結してた。その圧迫感に私は泣いていた記憶がある。先生は奇跡的に日本語が喋れる先生で色々と助けてもらったり話したけど落ち着くことは全くできなかった。

いろいろ助けてもらって今にいたる。そして今は英語も話せれるところまで上達したし、いろいろな経験、たくさんの友達、でいろんな困難を乗り越えられたと思う。親にも友達にも先生にも感謝の言葉しか出てこない。(1065)